乙川・伊賀川の四季を楽しむ植栽計画

*桜の再生計画、四季の植栽計画

令和8年2月

岡崎市
都市基盤部公園緑地課

Ⅰ.桜の再生計画

（１）桜の再生計画に至る経緯

乙川・伊賀川の桜は、明治時代から植樹が進められ、平成2年には「日本さくら名所100選」に選ばれるなど、市民に親しまれてきました。しかし近年は、桜の老齢化が進み、桜の衰退が顕著になってきています。これは乙川に限らず全国的な問題にもなっています。

岡崎市では、桜の再生を求める声が強く、地域の景観や観光資源としての価値が損なわれないよう、桜の再生計画を検討するに至りました。

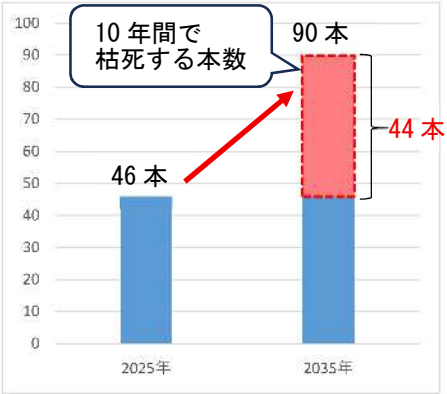
乙川

老齢化している桜

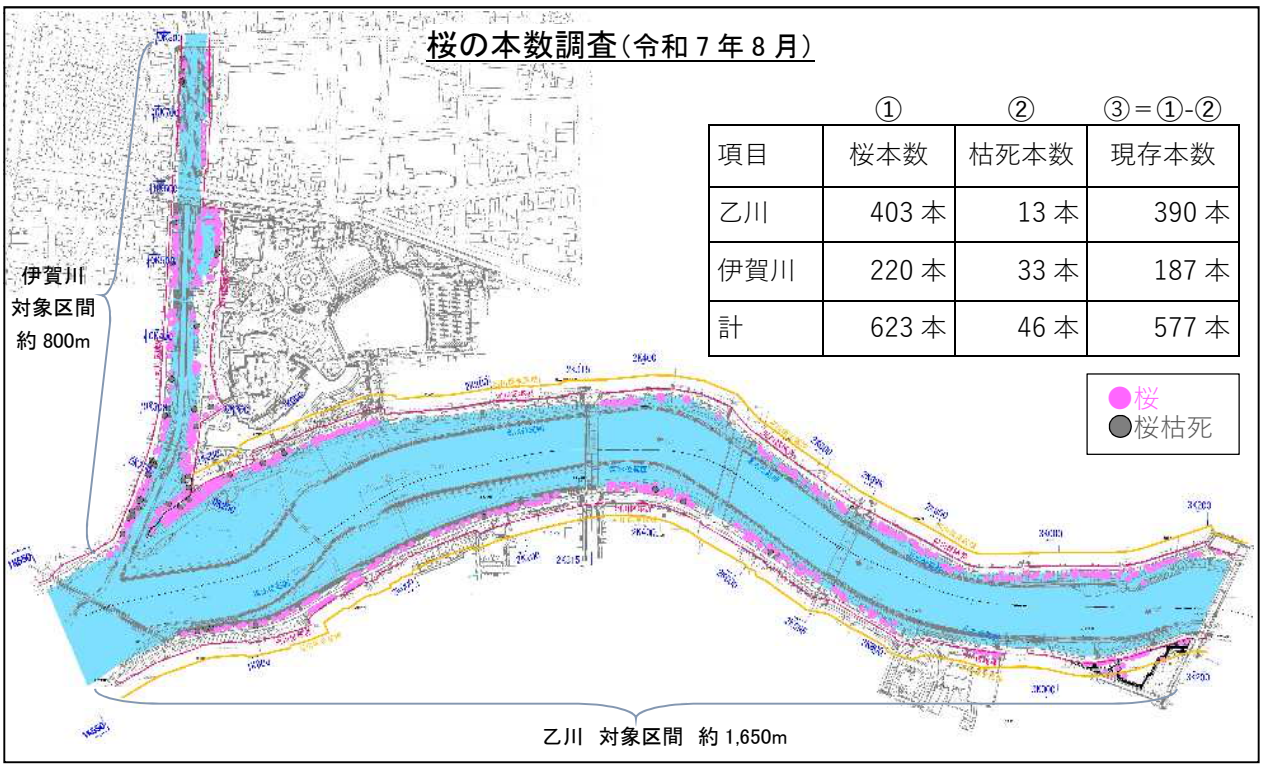
（２）乙川と伊賀川の桜の本数

令和７年８月に、乙川と伊賀川で桜の本数を調査したところ、乙川で390本、伊賀川で187本の計577本の桜があることがわかりました。また、令和7年までに枯死している本数は、乙川で13本、伊賀川で33本の計46本と確認されました。

今後10年間で乙川と伊賀川で44本が枯死すると想定され、桜を植樹した後、成長・開花するまでに約10年（一般的に5～10年）を要すると考えると、90本の新たな植樹が必要となります。



枯死木の本数（予測）



項目	① 桜本数	② 枯死本数	③＝①-② 現存本数
乙川	403 本	13 本	390 本
伊賀川	220 本	33 本	187 本
計	623 本	46 本	577 本

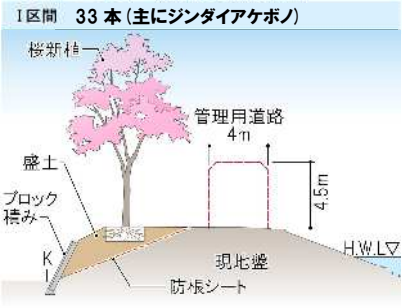
乙川・伊賀川平面図

（３）桜の再生計画

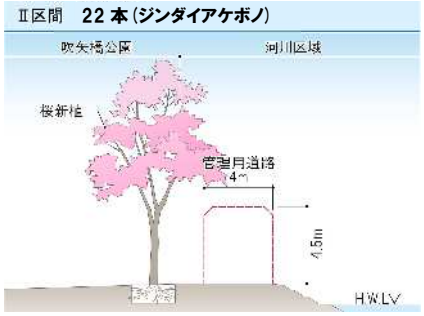
「河川区域内における樹木の伐採・植樹基準」に基づき、桜の再生計画を検討した結果、乙川で最大100本を植樹できる可能性があることがわかりました。Ⅲ区間の河岸法面では、耐風性に配慮する必要があることから、耐風性管理基準を作成し桜を管理していく計画としています。また、Ⅲ区間を整備することで、桜のトンネルの形成を目指します。

＊伊賀川では新たに植樹できる空間がなかったため、計画の対象外としています

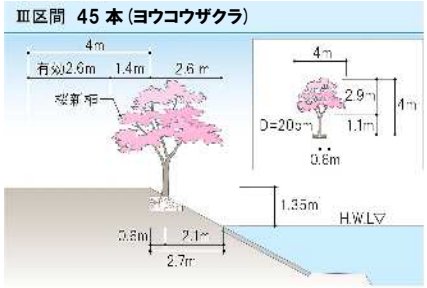
計画対象範囲



Ⅰ区間イメージ図

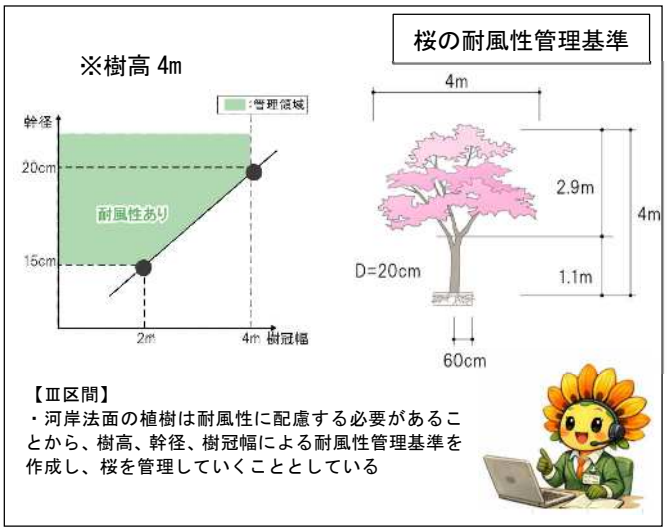


Ⅱ区間イメージ図



Ⅲ区間イメージ図

Ⅱ・Ⅲ区間が重複する箇所イメージ（桜のトンネルの形成）



●今後の予定

乙川で新たに桜の植樹が可能な本数は最大100本、桜を減らさないために現時点で植樹が必要な本数は90本となります。

早期計画として90本を目指し、先ず第1期として吹矢橋公園付近の植樹の整備を検討していきます。

なお、Ⅰ区間は事業規模が大きくなることから、予算なども考慮し実施できるかどうかも含め今後検討していきます

各区間の植樹時期　（単位：本）

項目	全体計画（新規に植樹が可能な本数）	早期計画（現時点で植樹が必要な本数）			後期計画（10年後以降、あるいは、さらに桜を植やす本数）
		第1期	第2期	計	
Ⅰ区間	33		23	23	10
Ⅱ区間	22	10	12	22	0
Ⅲ区間	45	25	20	45	0
計	100	35	55	90	10

2. 四季の植栽計画

（１）四季の植栽計画に至る経緯

乙川周辺は春になると桜が咲き、多くの人々で賑わう一方、その他の季節は芝や松によって、一様な緑の風景となり季節感に乏しい景観となっています。

他の地域の河川では、シバザクラなど様々な植栽により景観向上を図り、観光スポットとして賑わっている事例があります。

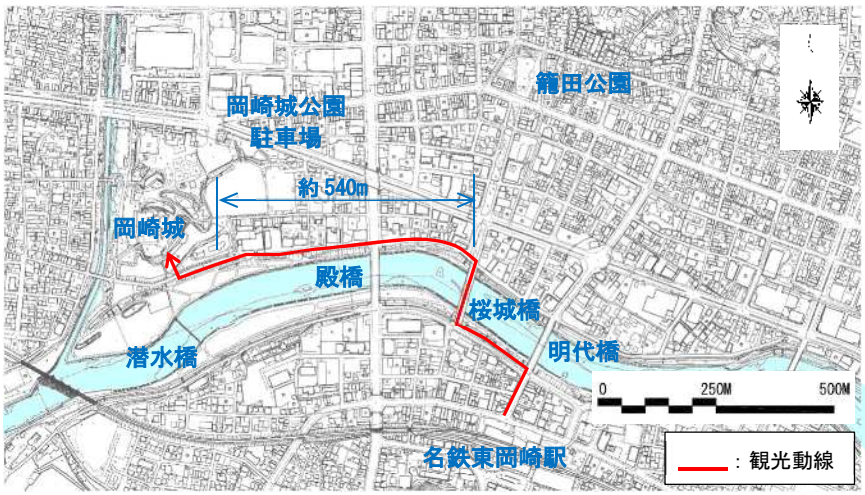
岡崎市では、春だけでなく年間を通して多くの人々が訪れ、水辺と花々の景観を楽しめる空間を創出し、より地域の魅力を高められるよう、四季の植栽計画を検討するに至りました。

乙川右岸　殿橋付近の現地状況

乙川　明代橋付近の現地状況

（２）計画場所

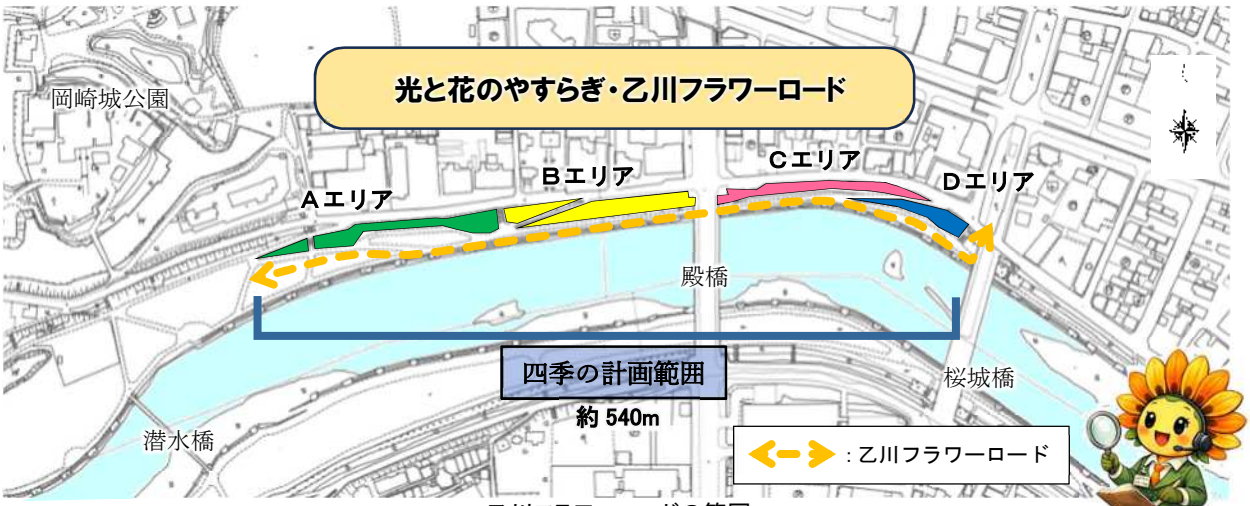
乙川は、岡崎桜まつり、岡崎花火大会、岡崎城下家康公秋まつりなど、多くのイベント会場としても利用されており、市内外からの来訪者が多いところです。計画場所は、東岡崎駅から岡崎城へ向かう観光動線に着目し、乙川右岸の桜城橋から潜水橋付近までの区間で、日当たりが良く草花が育ちやすい河川の法面です。橋や階段などをもとにA～Dの4エリアに分けて四季の魅力を表現し、この四季の彩りを感じる散策路を「光と花のやすらぎ・乙川フラワーロード」に位置づけます。



計画場所

岡崎城

秋まつり時の乙川の利用状況



乙川フラワーロードの範囲

（３）四季の植栽計画

乙川の園路沿いを中心に四季を感じられる空間を創出し、河川空間へ人を呼び込みます。

植栽は、管理負担の少ない在来種の多年草を採用し、河川の増水時でも流されにくい背丈が低く密集する植栽種としました。また、増水時の耐侵食機能を定量的に評価しています。

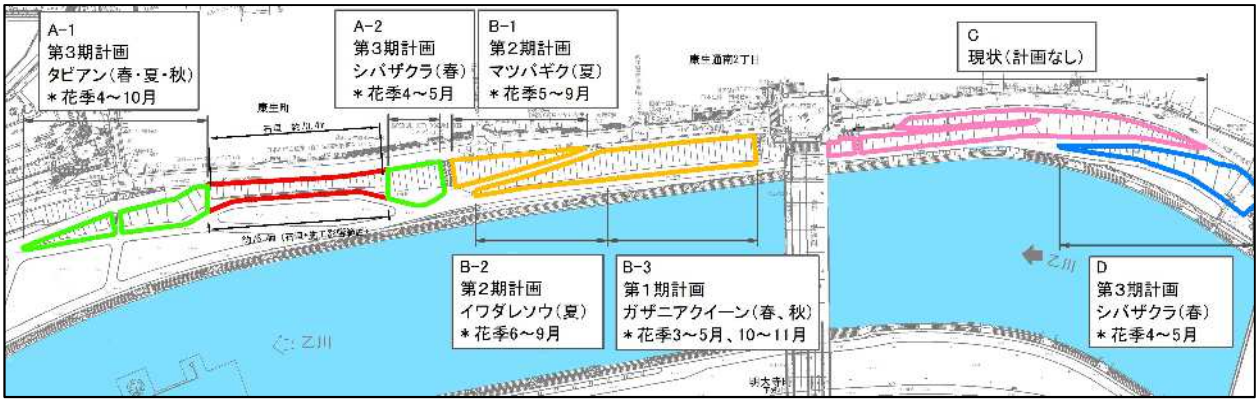
計画の策定にあたっては、植栽の専門家である天野麻里絵氏の助言を受け５つの植栽種を選定し、整備は第1期から第3期まで段階的に進めることとしています。

●植栽の専門家

天野麻里絵　先生

【経歴】

- ・浜名湖花博 2024 花壇植栽デザイン・監修
- ・2025 年 福岡市一人一花アンバサダー就任
- ・NHK 趣味の園芸講師
- ・各種コンテスト審査員 など



植栽計画図

＜A-1エリア（想定イメージ 春）＞

A-1 エリア　イメージ図

＜B-1,2エリア（想定イメージ 夏）＞

B-1,2 エリア　イメージ図

＜B-3エリア（想定イメージ 秋）＞

B-3 エリア　イメージ図

＜Dエリア（想定イメージ 春）＞

D エリア　イメージ図

●耐侵食機能の定量的評価

河岸法面に四季の植栽を植えると、河川の増水時に流れてしまうことが懸念されます。このため、植生による表面侵食耐力と、河川の流水による侵食外力とを比較し、耐侵食機能の定量的な評価を行い、流されにくい植栽種を選定しています。

耐侵食機能のイメージ図
（河川の増水時でも花が流されない様子）

●参考　植栽のイメージ

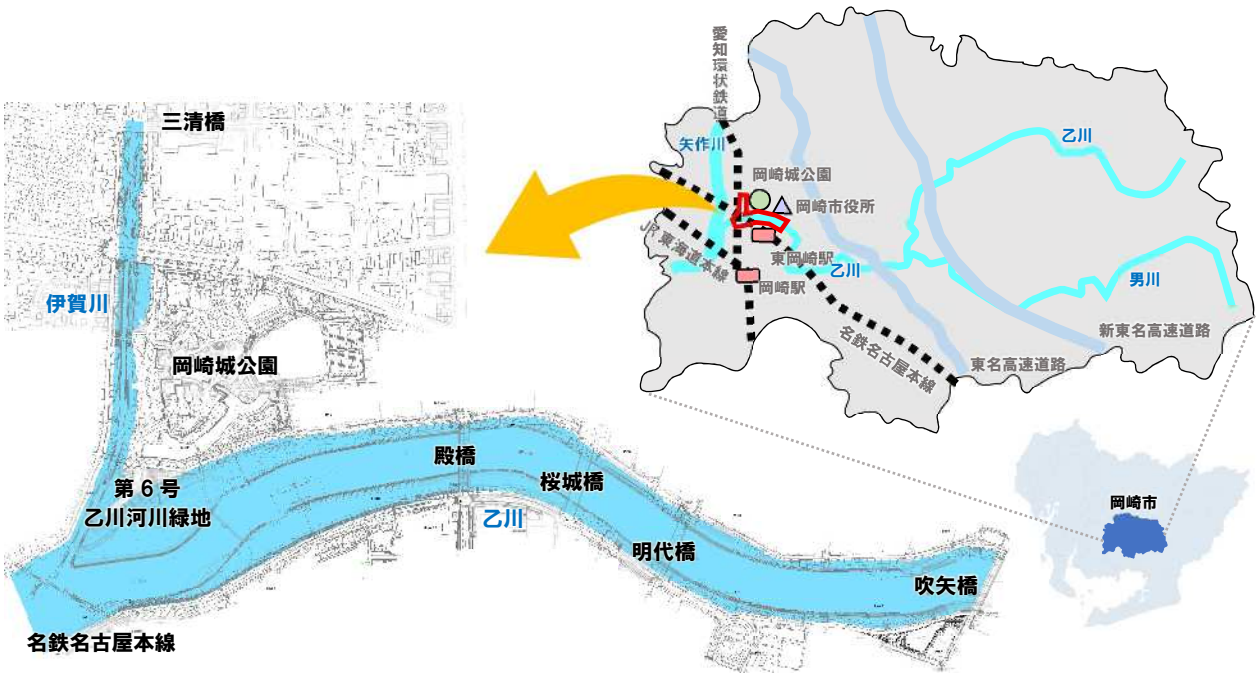
＊A-1 タピアン（2 種類を混色）、＊A-2 シバザクラ（青系）、
＊D シバザクラ（混色も含め実施段階で検討）

植栽のイメージ図

3. 計画箇所の位置等

乙川は岡崎市の中央を、伊賀川は岡崎市の西側を流れ、名鉄名古屋本線のあたりで合流しています。周辺には、名鉄名古屋本線東岡崎駅、岡崎市役所、岡崎城公園があります。

計画箇所は乙川で、乙川と名鉄名古屋本線が交差する付近から吹矢橋までの区間となります。



4. 市長コメント

岡崎市長　内田康宏

乙川・伊賀川では、明治時代から桜が植えられ、市民の憩いの場として長年親しまれてきましたが、最近では、桜の老齢化が進み、年々その本数が減り、私も大変心配しています。そこで、少しでもその本数を維持するためにも、岡崎城公園周辺の桜花咲プロジェクトのほか、乙川沿いでの桜の再生計画を策定することとなりました。また、桜以外にも私の公約であります乙川沿いで四季それぞれ楽しい、季節の花を植栽する計画も併せて策定しました。これらの植栽は皆さまからのご浄財等も活用しながら事業を順次進めて参ります。

5. 検討経緯

計画検討にあたっては、河川管理者である愛知県西三河建設事務所と「乙川・伊賀川の四季を楽しむ植栽計画検討会（事務局：岡崎市公園緑地課）」を５回開催し調整を行いました。

日付	項目
R7.3.10	第１回検討会
R7.4.10	現地調査（市）
R7.8.1	第２回検討会
R7.10.8	第３回検討会
R7.12.19	第４回検討会
R8.2.20	第５回検討会

編集・発行　岡崎市 都市基盤部公園緑地課
令和８年２月

岡崎市 都市基盤部公園緑地課
〒444-8601　岡崎市十王町２丁目９番地（西庁舎４階）
TEL　0564-23-6181